

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)㈱スズキ自販熊本 本社建替	階数	地上2F		
建設地	熊本県熊本市南区平田1丁目14、16	構造	S造		
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	50 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年		
建物用途	集会所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2018年6月13日		
敷地面積	4,089 m ²	作成者	臼井 千尋		
建築面積	1,666 m ²	確認日	2018年6月13日		
延床面積	2,110 m ²	確認者	定森 淳一		

1CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

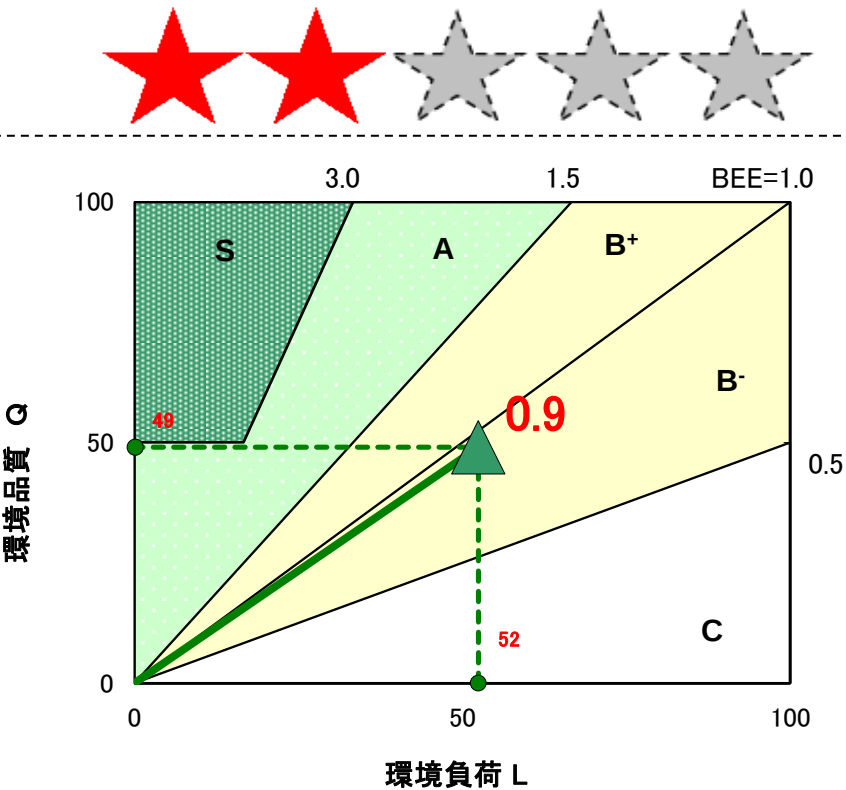
★★★★★

★★★★

★★★

★★

★



■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆

☆☆

★

★

★

BEE = 0.9

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

91%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



67

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

59.2

63.7

75.0

78.7

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

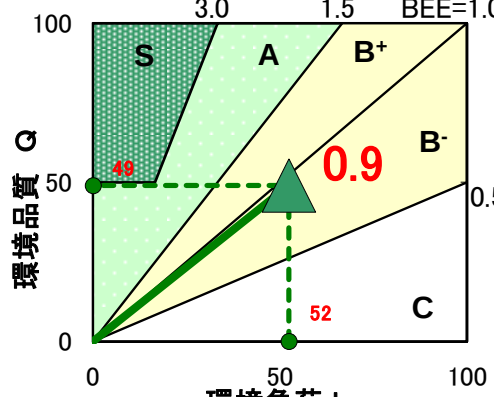
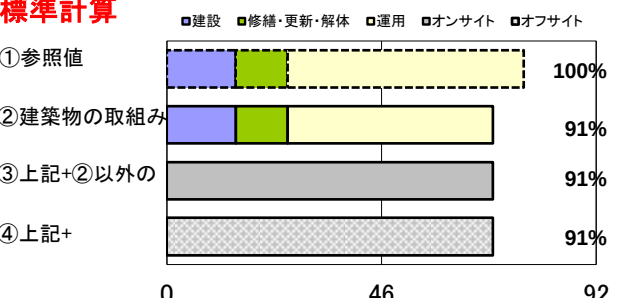
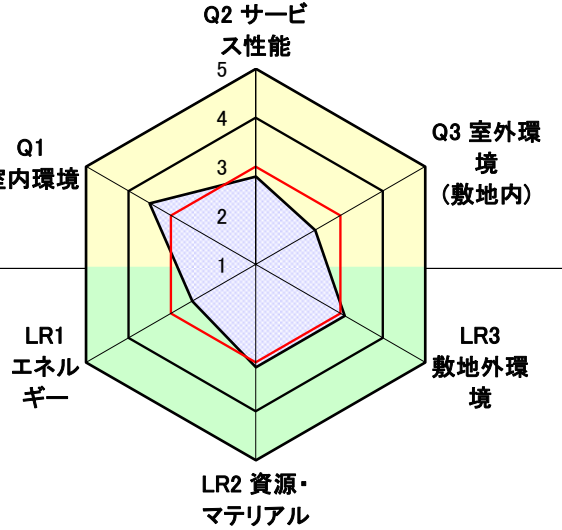
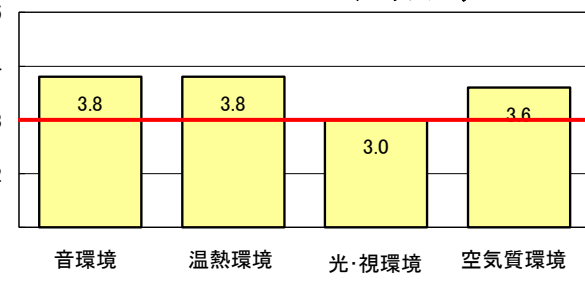
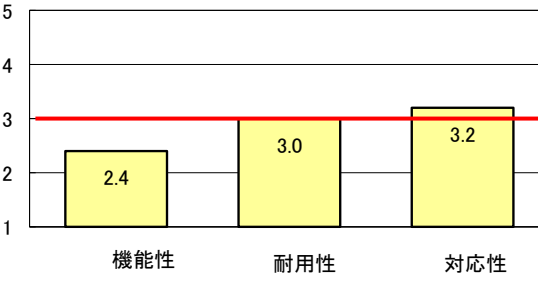
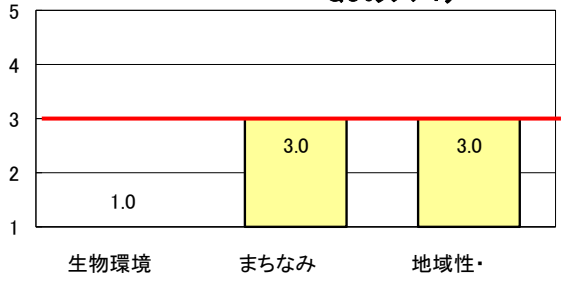
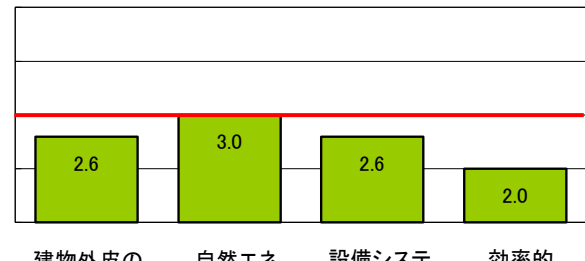
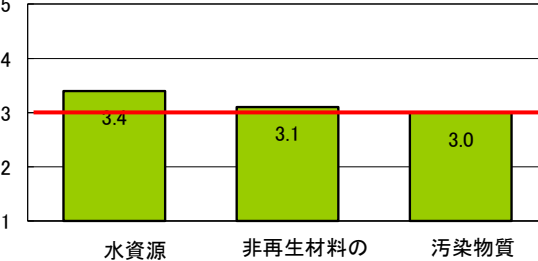
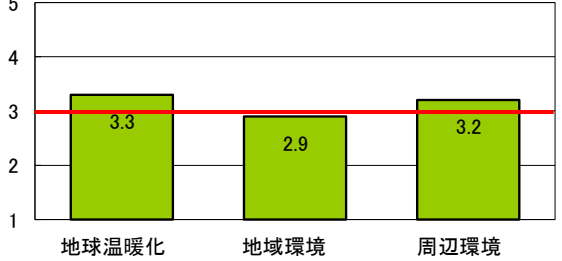
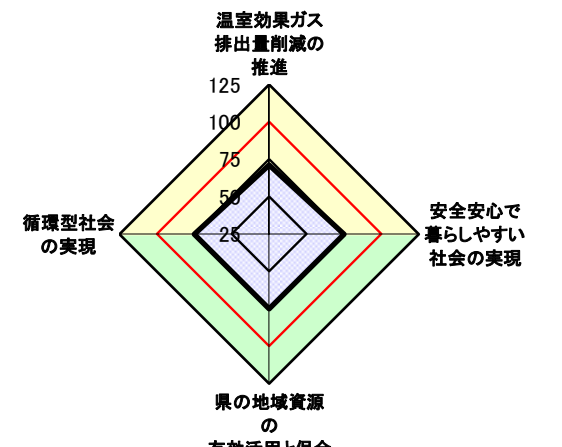
※評価点は、100点以上が推奨です。

Page : 1/6

Sheet : 1/5

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	(仮称)株式会社熊本 本社建物	階数			
建設地	熊本県熊本市南区平田1丁目14、16	構造			
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員			
地域区分	6地域	年間使用時間			
建物用途	集会所、工場、	評価の段階			
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2018年6月13日		
敷地面積	4,089 m ²	作成者			
建築面積	1,666 m ²	確認日			
延床面積	2,110 m ²	確認者			
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)			2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.9 			 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです		
2-4 中項目の評価(バーチャート)					
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.5  Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8  Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.4 					
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.5  LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1  LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1 					
3 設計上の配慮事項			重点事項の評価(レーダーチャート)		
重点事項総合評価  評価点 = 67					
重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 59.2 		重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 63.7 			
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 75.0 		重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 78.7 			

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)熊スズキ自販熊本 本社建替え工事

 ■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.9	
Q1 室内環境					0.36		-	3.5	
1 音環境				3.8	0.15	-	-	3.8	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				5.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		集会所用途:ショールーム開口部遮音性能 T-2		5.0	1.00	-	-		
2 界壁遮音性能				-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				3.8	0.35	-	-	3.8	
2.1 室温制御				3.5	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能				2.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		集会所用途:空冷マルチエアコン冷暖房選択(40㎡以内のゾーニング)		5.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		集会所用途:ショールーム エコシルフィを採用		5.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-	3.0	
3.1 昼光利用				-	-	-	-		
1 昼光率				-	-	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				-	-	-	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
1 昼光制御				-	-	-	-		
3.3 照度				-	-	-	-		
3.4 照明制御				3.0	1.00	-	-		
4 空気質環境				3.6	0.25	-	-	3.6	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		集会所用途:内装材・天井裏はF☆☆☆☆のみを使用		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				2.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.50	-	-		
2 自然換気性能				-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50	-	-		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御		集会所用途:負圧の喫煙ブースあり		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.8	
1 機能性				2.4	0.40	-	-	2.4	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				1.0	1.00	-	-		
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		共通 床:長尺塩ビシート20年,壁(天井):PBの上ビニルクロス20(30)年		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		共通:屋外露出ダクトはガルバリウム鋼板を使用		4.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途:給水管、汚水排水管、雑排水管:B以上,Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.9	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		吊配管・空調(物販店舗は空調換気)は負荷を下げて運転可能		4.6	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり			工場用途:4.4m以上 基準階壁長さ比率0.20	4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	5.0		0.24	-	-		
2	空間の形状・自由さ	4.0		0.76	-	-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性				2.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0		0.20	-	-		
2	給排水管の更新性	2.0		0.20	-	-		
3	電気配線の更新性	3.0		0.10	-	-		
4	通信配線の更新性	3.0		0.10	-	-		
5	設備機器の更新性	3.0		0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保	3.0		0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.34	-	-	2.4	
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	2.9	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.6	0.12	-	-	2.6	
2 自然エネルギー利用			3.0	0.11	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] : 0.87	2.6	0.55	-	2.6	
4 効率的運用			2.0	0.22	-	-	2.0	
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-		
4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-			
4.2	運用管理体制	1.0	0.50	-	-			
集合住宅の評価			-	-	-	-		
4.1	モニタリング	-	-	-	-			
4.2	運用管理体制	-	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1	
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1 節水			共通: 過半に節水コマ及び省水型機器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-			
2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1	
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			リサイクル資材1品目使用2階休憩室・保管書庫:ビニル床材オデオン(サンバタ)	3.0	0.20	-		-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			共通:設備と躯体の錯綜無し,集会所用途:事務室OAフロアを採用	4.6	0.20	-		-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-		
1	消火剤	-	-	-	-			
2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-			
3	冷媒	3.0	0.50	-	-			
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1	
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出量91%	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9	
2.1 大気汚染防止			ガス燃焼設備機器なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-			
2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-			
3	交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-			
4	廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-		
1	騒音	3.0	1.00	-	-			
2	振動	-	-	-	-			
3	悪臭	-	-	-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-			
2	砂塵の抑制	1.0	-	-	-			
3	日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-			
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害及び広告物照明のチェックリストの過半を満たす。	5.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

空冷ヒートポンプ空調・LED照明の採用で省エネルギー性能に配慮。
エコシルフィの採用で、上下の温度差を無くし、温熱環境に配慮。

Q1 室内環境

エコシルフィの採用で、上下の温度差を無くし、温熱環境に配慮。

Q2 サービス性能

耐用年数の長い材料を採用し、耐用性・信頼性に配慮。

Q3 室外環境（敷地内）

可能な限り、外構に緑地を設け、敷地内環境に配慮。

LR1 エネルギー

空冷ヒートポンプ空調・LED照明の採用で省エネルギー性能に配慮。

LR2 資源・マテリアル

節水型機器の採用で、水資源の保護に配慮。

LR3 敷地外環境

ガス燃焼機器不使用で、地球温暖化に配慮。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称) 熊本スズキ自販熊本 本社建替え工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		67
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				59.2	0.40	23.68
Q1-2.1.2	外皮性能	2.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	2.6	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.6	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				63.7	0.20	12.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				78.7	0.20	15.74
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数